

### 秩父宮同妃兩殿下 御八ヶ月振りに御帰朝遊はる

和蘭船速 互御訪問  
千定御取  
の外は御

(東京十五日)天皇陛下御 止の御帰途に就かせられたる  
名代として英皇陛下御駐蹕式  
に御参列。種々御便令を  
果せられた秩父宮同妃兩殿下  
下は永の御放路と御遊はる  
く杖晴に爽涼の氣運る十五  
日午後一時半御乗船永川丸  
にて横浜御着。御杖晴遊  
御八ヶ月振りに御帰朝遊  
はられた。

而しては長くと御放中東  
遊の御便令を御参。御杖晴  
の御参遊と東の間に御遊  
はられた。

### 空歩砲の三段構へによりて 上海北部の支那軍逆襲し来る

#### 我軍八時間の激戦後之を撃退

(上海十五日)上海北部戦線の支那軍は十四日夜半五時  
空歩砲三段構へに依る逆襲を行つて来り全線に亘り約八時間の  
激戦の續けられた。十九日早曉多火の激戦を遂げて撃退された。  
(上海十四日)報章発表によれば上海北部方面の陸軍隊は野部  
隊は十四日夜二回に亘る敵大部隊の逆襲をよく撃退。之を撃  
退した。

(上海十四日)本夕刻上海上空に襲来した敵機は機銃により  
西部工場地帯の支那艦隊永安防護隊倉庫中火交互起した。  
(上海十四日)日華防護隊東工場は華要物突撃隊と共く敵の  
兵備に對し、工場の大部分を焼失し弾りの倉庫内の棉花は前  
松瀨警備司令高虎が軍費充當のため部下部隊を率ゐて掠奪。英  
國商社の手を通じ支那防護隊に販売せしむることを判別した。

### 支那軍内部に兵乱起る

(上海十四日)報章によれば  
十三日午後揚子江方面吳淞々

### 我軍津浦線張莊土橋街を占領!!!

リク南方一帯を守備してゐた支那軍内部に兵乱起り第一線  
部隊と警備隊が衝突した。

(薊州十四日)福永部隊の一部は十四日正午津浦線上方平原商  
城の中間にある張莊を占領した。明石部隊は薊州東南方四里  
の土橋街を占領した。

### 蒙古軍十四日帰化城に入城す

(綏遠十四日)蒙古軍と十四日夕刻帰化城に入城した。

### 雪交りの寒風中に壯烈空中戦展開

(〇〇十五日)十九日朝雪交りの寒風を伴つて山西省忻州方  
面に進出した我軍山下大尉の指揮する〇〇機は忻州附近の西方  
上空に於て敵機三機と遭遇。壯烈なる空中戦を展開して敵  
機三機を完全に撃墜。残る一機は機銃として我方に墜走した。  
敵機同時噴火の〇〇機は忻州鎮東方山地に在りて地上部隊  
の側面を襲ひつゝ、あつた敵の大部隊を発見。猛襲を行つて更  
に敵機の墜落を誘ひつゝ、之を撃退せしめた。

### 臨時内閣参議 正式決定

(東京十五日)臨時内閣参議  
は十九日午の十時正式  
に発令された。

### 日ソ漁業改訂条約 正式調印方を外相より 重光大使に訓電

(東京十五日)日ソ漁業改訂  
条約調印問題は仮調印を了し  
昨年十一月廿日正式調印の運  
びとありて、調印の寸前に  
ソ側は日独防共協定を楯にと  
つてその約束を一方的に破棄  
し去つた。我方は昨年十二  
月廿九日現行条約一年間延長  
の暫定的取定の互あした。

### 羅馬教王廟防共の地より 日本の対支行動に協力

(バチカン十四日)羅馬教王  
廟は先トスベイン革命政権を  
承認。前年ボルシェビズム推  
進の決意を示した。十四日  
本の反共征伐に對し非公式的  
の形式で極東の全カトリック  
教團に對しボルシェビズムの  
危険を発生する場合は、日本の  
対支行動に協力するやうに  
左発した。

### 獨台不可侵宣言に 伊太利と多分参加

(羅馬十四日)獨逸政府は十  
二日獨台不可侵宣言を發表し  
た。確固するに伊太利と同宣  
言に参加すると云はれてゐる。

### 埃及政府、徵兵制を施行 北阿の情勢刻々緊迫!

(カイロ十四日)埃及政府  
は地中海並に東アフリカに  
於ける英伊の対立激化に  
備へ首都カイロ市の防空  
隊に召集してゐる。

### 日本の正当要求を認めよ 英國自衛隊を前之主張

(バーミンガム十四日)英國自  
衛隊を前之主張は十四日  
北部イングリランド、バーミン  
ガムに開かれた自由党大會上  
日本の對支行動を停止せしめ  
るには、第三國は日本の正当  
要求を承認すべきだと  
主張した。

### 西廷牙不干渉分科委員会 最後表示を呈す

(倫敦十四日)西廷  
牙不干渉分科委員会  
は十六日再開、外國  
勢動軍撤収の緊急に強固  
委員会参加國は今後義勇兵派  
遣を行はざること協約する  
こと、右矢取の場合、英法  
兩國は自由行動をとるや  
と知照する旨、最後の意  
志表示を呈した。

### 末次大將 予備編入

(東京十五日)  
内閣参議に就任

陸軍 宇垣一成 飛木貞雄  
海軍 末次信正 安原謙雄  
政界 町田忠治 崎田米藏  
秋田清  
財界 野崎之助 池田成彬  
外交 松岡洋右

制を施行するに決し  
たと云はれる。政府  
は近く徵兵法案を議  
会に提出、承認を求  
むると見られる。伊太利政府  
はドイツ國民地にファシスト軍  
團を派遣し、英國の陸海軍の  
一隊及び軍用自動車九十五台  
と十二日アレキサンドリアに到着  
したとの報傳と相俟つて北ア  
フリカの情勢は刻々緊迫互加  
へてゐる如くである。

西廷牙不干渉分科委員会  
最後表示を呈す  
(倫敦十四日)西廷  
牙不干渉分科委員会  
は十六日再開、外國  
勢動軍撤収の緊急に強固  
委員会参加國は今後義勇兵派  
遣を行はざること協約する  
こと、右矢取の場合、英法  
兩國は自由行動をとるや  
と知照する旨、最後の意  
志表示を呈した。



### 秩父宮同妃西殿下愈々十五御掃朝

(東京十四日) 秩父宮同妃西殿下には愈々十五御掃朝着港御掃朝遊ばされる。去る三月十八日の御掃朝立ち以來、満御名代宮としての御使命帯りなく御旅先での御病と全く癒えさせられ、事支下秋園の故園へ御氣遣癒しく御掃朝遊ばされるのである。十四日御掃朝水川丸は朝一初母國へ近づきつゝ、あり太平洋波と撞やみ、晴の御掃朝國に前に宮家は香の色の溢れてゐる。

### 畏くも天皇陛下北支へ

二日追に宮内省御所前に出る形式は美濃紙立詠草五則で官職位勲爵位並有するものは六名の上に記載し、六名は必ず振假名を振ることになつてゐる。

### 待從武官を御差遣

(東京十四日) 十四日午後五時陸軍省発表、畏くも天皇陛下に於せられは北支方面の情況、突視のため待從武官陸軍騎兵大佐四手井細正と十月下旬御差遣される旨洩れ承る。

### 新春の勅題は「神苑の朝」

(東京十四日) 宮中御恒例の明年新春歌会始めの勅題は十四日午後神苑の朝と御せ出され、詠達は一人一首十二月十日決定し内外地を通ずる有様。

### 英政府は対日ボイコットを断念か?

(ロンドン十三日) 英國政府は十三日の閣議で地中海向通商に極東向通商に同じ協議した結果対日ボイコットの如きは現在の情勢下に於て不可能であるとの従来の見解に變化無かつたと確固する。

### 白独不可侵協成成立

(柏林十三日) 独乙と白爾美との間に締結された不可侵協成は、十三日兩國間に通牒交換の形式で右協成成立を發表した。

伊太利リビアへ  
続々義勇軍派遣

的經濟計画を樹立し政府の諸向に應ずることになつた。

### 陸軍省への献金額 二千数百万円突破

(東京十四日) 専攻以來今日まで陸軍省に集つた献金額は既に二千数百万円の多きに達してゐるが陸軍省は恤兵金の一部を以て戦没將士の遺族に弔慰金を贈る傍ら軍事扶助法現の適用に俾れる幼婦々若に對して十餘万円を割いて救恤することに決つた。

### 上海外人記者の羨望

(上海十四日) 在上海某有力外人新聞記者は我陸海軍の煙草代に十百五十万を寄贈して来た。

### 我が對滿支貿易

(ロンドン十三日) スペイン内訌を繞り歐洲政局の不安に備へて日本は連日リビアに義勇軍を送つてゐるが十三日更に三十萬名の義勇軍がリビアに向けるナポリを出發した。

### 新犠牲者八百名

(モスコ十三日) ソ聯政府は来る十一月七日の革命二十周年記念日に對して國內各方面に亘つて徹底的な正工作を進行してゐるが現在判明せる犠牲者だけでも既に八百七十名に達してゐるが實際には更に多数に上ると見られる。

(東京十四日) 大藏省発表に依り昨九月中の對滿支貿易稅額重位十四億は輸出六九三億、輸入二二八億九、輸出四六五億である。

### 正しき認識を手へんと 欧米 國民使節出發

(東京十四日) 支那事變に對する帝國の公正な態度を明かにせんと欧米各國に正しき認識を授けるため重要任務を擔ふ國民使節三ヶ國として全國二十

### 米國新聞が國民へ警告

(東京十四日) ニューヨークタイムズ紙は昨日の紙上に「日本はソ連と提携する。社説」と題する。社説は「日本はソ連の無効な提携して左の如く論じてゐる。

「日本はソ連は両方の剣の如きもの過去の経験に依りは結局各國の自給自足政策の傾向を強し國際貿易を縮小するに過ぎない。自給自足と云へば日本の北支獲得は第一目的として第一の目的は「日本はソ連はハラルドトリス」紙は歐洲大戦の苦い経験と想起して警告を戒め次の

### 棉花の自給

「日本はソ連はハラルドトリス」紙は歐洲大戦の苦い経験と想起して警告を戒め次の

### 五百億

「日本はソ連はハラルドトリス」紙は歐洲大戦の苦い経験と想起して警告を戒め次の

民使節大會を即任堂皇確松方専次郎首相の四代は伊藤正徳等の隨員を従へ十四日午後三時橋本出帆の電田丸で出發した。

### 支那事變と

(東京十四日) 上智大学では最近「支那事變と日本カトリック教徒はどう見るか」といふ文章を作成するに及び重要任務を擔ふ國民使節三ヶ國として全國二十

### 梨本元帥宮殿下 神宮祭主に御就任

(東京十四日) 神宮祭主故入道宮多嘉王殿下の御後任に梨本元帥宮殿下が御就任遊ばされることに及び十四日左の如く奉命された。

### 十五日の定例閣議

(東京十五日) 十五日の定例閣議は近衛首相より十九日の閣議後參議の初顔合せを行ひたい旨を述べ次いで賀屋藏相より國民經濟能率増進のため各官廳に於て極力無駄を省き被服用品その他節約し得るものはこれを次々々々實行に移すやうにしたいと語り早速これを実行せしめ合せ最後に山田相より北支並に上海方面の戦況に關し各新聞と頻りに連絡してゐる旨を報告した。

### 五百億

「日本はソ連はハラルドトリス」紙は歐洲大戦の苦い経験と想起して警告を戒め次の

### 五百億

「日本はソ連はハラルドトリス」紙は歐洲大戦の苦い経験と想起して警告を戒め次の

### 五百億

「日本はソ連はハラルドトリス」紙は歐洲大戦の苦い経験と想起して警告を戒め次の



# 蒼空の下、若人は雄躍！

## スポーツ日本のため氣を吐く 南部メンドサ日青会主催 第四回陸上競技大会

(メンドサ特信) 南部メンドサ日青会主催第四回陸上競技大会は朝来爽涼の氣流を、十月十二日午前九時半より、ロスノカレス農場内運動場に於て挙行、観衆無慮五千余名大盛況であつた。

### 当地方

に於ける年中行事の最大の呼物となつてゐるこの大会のこと、早朝より参集せる選手観衆に、より早く前会前には黒山の如き人出、正九時半花火を合図に役員、小学生徒の入場式を行ひ、並國々歌合唱演は並國々旗をしくと揚揚、続いて「君が代」合唱は日の丸の旗は静かに掲げられた、晴れ渡つた中空にひるがへる日の丸を眺めて日本國民と生れしことを感謝すると共に、今や戦雲賦ふる北支上海の空に想ひ馳せぬが、遠く万里の異郷に在りとも赤誠は同じ、何かつくさんの氣慨が一同の眉宇に表はれてゐるのは頼むし、続いて田代会長の開会の辞あり

### 優勝者

をかけたの男子小

はアリスウ校危くホーン校の追撃を併せて優勝すれば、女子小学生四百米リレーに於てもその余勢を以て他校を軽くおさへて優勝し男女とも遠くロサリオ市のグラシニア兄弟商會寄贈の銀盃を獲得した

続いて行はれた中本君指導のレアルデルパドレ小学校三年生の体操は、これも治港に整然と行はれ、地元の外人觀衆に

驚異の拍手報に終れば、大会の白眉剣道は矢島、吉川

両君の模範試合に始まり、豊島、橋富両君の打ち合ひあり、若き剣七達の梨膏の氣

合と剣火の閃き、相打つ剣火は溢れぬ、観衆席を完全に魅了し去り、午前のプロگرامを終る。

午後には入ると共に、観衆は蘇り相ついで送る拍手声援も力強くひびき、躍動する若人の力と意氣の絵巻物は固唾を呑む觀衆の眼前に、

競技開始に先立ちラフアエル市長、ピシヤトエルトン市長等の祝辞あり競技に進入したが、豊島アリスウ校走中跳及び三級跳に入賞、矢島兄弟高跳に奮闘惜しくも優勝を逸して二等に入賞、邦人のために氣を吐く。

二十分 マラソンはこれを目がけて遠くサンシア市、メンドサ市、サンラファエル市等より強者集り来つて激戦を予想されたが、昨年の記録一時間四十分を遙かに破る一時間二十六分の好記録が樹立された、なか本年も邦人の出場のみかつたのは淋しかった、着サンラファエル市出身、二着サンシア市出身、三着メンドサ市出身、選手連によつて白められ、着にはノルサカライ氏を授けられた、マラソン出発後サンラファエル市のカトリック教区校より生徒が觀覧に来て、体操の生徒のみにて体操をやり

観衆を魅了せられて、四百米リレーには三チーム参加始めよりレアルデルパドレとロスノカレスが接戦、僅かにリードするレアルデルパドレはロスノカレス組のラスト豊島健太に奮闘よくつめたが抜けず、寺嶺領事官は遠くレアルデルパドレチームの獲得するところとあつた、最後の呼物、アキラルイゴテイ氏を争奪戦男子

八百米リレーは四チームの争ひで接戦した接戦、追いつ追はれつする様は觀衆は総立ち、手に汗をにぎり一時、興奮の地場を醸した、同日午後九時よりレアルデルパドレチームに優勝の差でアリスウチームは優勝十米おくれで青年会三等に入つたが、二着共にアリスウとして、四着あり、若き青年会は譲歩して二着チームのみにてやり直し

たが、レアルデルパドレチーム十米の差を以て連続優勝し勝盃獲得の栄譽を得た、かくて暮色迫る午後七時この栄えある大会は大盛況にめでたく終了した。

同日午後九時よりロスノカレス農場内には於て青年会主催の下にグランドパイルあり、四百余名参加大盛況裡に午前三時ごろ散会した。

### 歌行脚も樂ではふい

忙しい藤原義江氏  
最終日の独唱会もめでたく盛會

オデオン劇場に於ける藤原義江氏独唱会最終日の去る十三日は夜十時開演であつた、め外人はもとより、教員名は連する邦人の觀客もあり同氏独唱会前後四回うち八場者レコードを作つた、

尚ほ前記最終日独唱会大成功裡に終へたテナー義江氏は、十五日モンテビデオ市ソリス劇場にて第二回独唱会を開いて本十六日帰武、休息の暇もあく来る二十日午後九時半よりエキセルシオ放送局より独唱の

放送  
をさし、廿四日は日會主催の献金独唱会(日会よりは未だ発表なし)に出演、廿七日再びエキセルシオより独唱放送をさす、ついで二十九日午後九時半より

さんごす丸で  
帰國する人々

本十六日午後十一時故国向け帰航の途につく高船さんごす丸では左記諸氏が帰國する

たが、レアルデルパドレチーム十米の差を以て連続優勝し勝盃獲得の栄譽を得た、かくて暮色迫る午後七時この栄えある大会は大盛況にめでたく終了した。

同日午後九時よりロスノカレス農場内には於て青年会主催の下にグランドパイルあり、四百余名参加大盛況裡に午前三時ごろ散会した。

内田政憲、吉田益、片島藤一、牧作次

世は將はコクスイあうでは夜の明けぬこ

こにあつて来た。去る十三日夜の藤原氏のオデオンに於ける最後の独唱会に、アラテア席第一例目のまん中がらばつてゐた一杯氣味のおツさん日本人の面も何もかもかぶり捨て、藤原氏の外國の独唱始まるや巻巻よろしく「藤原は駄目だ！毛唐の歌ふんぞキイク声を限り上げて歌ひやがて！彼は非國民だ!!」とわめき立てゝゐる、さて、この分を毎日アルセンケンのアラテア口を食つてゐる我々同胞は、大非國民であることにも知るかも知れぬ、アラテアが進入して日本の歌が歌はれるやこおツさん敬慕立ち上り、「ハイ、ピン」とはさても厄介な時、

特輯

日支事変下の祖國情景

今度の事変に於ける愛國の活躍と共に見逃してはならぬ... 愛國運動に對してはここに批判の余地あるべき筈が...

事変下の東京から 加藤新吉

濠洲橋問題が起つた時何れは近き内に北支で衝突するだ... 是れは在る支那人で帰國するもの...

の欧米人にも判る筈である... 在連邦人によつて疎出されたる恤兵献金の...

昨今の母國は都會も田舎も... 日の丸の旗と出征の旗と波々打ち、各隊は晝夜の別なく...

母國から齎した話

最近 某船高級船員某氏談

永年非常時々の全國民の神態が高ぶつてゐる... 船がいくとくおとく瀬戸内海を...

幸ひ本年は米豐作の様様である... 幸ひ本年は米豐作の様様である...

又たかういふ話もある... 又たかういふ話もある。大阪のある富豪の息子だが...

将棋の駒 (組一〇〇)

市内カセロス街一九八三... 市内カセロス街一九八三...

## JAPON en CHINA

Los lectores de *El Argentin DjiJo* están enterados sobre el origen y desarrollo del incidente chino-japonés del presente, que ha adquirido proporciones de una vasta lucha armada, pero ante los pronunciamientos insólitos de la Sociedad de las Naciones y de Estados Unidos que declararon —, aunque sin derechos para ello — que las acciones emprendidas por el Japón constituyen una violación del pacto antibélico y de las nueve potencias, conceptuamos necesario aclarar una vez más la situación japonesa, a cuyo efecto transcribimos a continuación las partes esenciales de la declaración oficial del Gobierno del Japón:

"El actual conflicto chino-japonés se originó por el ataque injustificado cometido por las tropas chinas contra las fuerzas japonesas que legítimamente se encontraban de guarnición en el norte de China, de acuerdo con un derecho reconocido claramente por los tratados.

Las tropas que estaban de maniobras al producirse al ataque constituían una unidad sumamente pequeña. La guarnición japonesa se encontraba en ese momento dispersa en distintos lugares en cumplimiento de sus deberes de tiempo de paz.

Después de iniciarse las hostilidades el Japón hizo cuanto pudo por llegar a una solución local del incidente, aun sacrificando ventajas estratégicas.

China violó abiertamente el acuerdo de cesación de hostilidades de 1932 al concentrar una fuerza de 40.000 hombres en la zona desmilitarizada, tratando de aniquilar a nuestras fuerzas de desembarco, que apenas llegaban a 3.000 hombres, y a nuestros 30.000 compatriotas que viven en las concesiones entre los que hay gran cantidad de mujeres y niños.

"La amplitud que tomaron luego las operaciones militares japonesas ha sido la consecuencia inevitable de las operaciones hostiles de China, que rechazando nuestra política de solución local y de no agravación del conflicto, trasladó y concentró sus grandes ejércitos en contra nuestra.

"Las acciones emprendidas actualmente por el Japón constituyen medidas de defensa a las que se ha visto obligado a recurrir frente a los actos premeditados de provocación de que ha sido objeto.

"Lo que actualmente trata de conseguir el gobierno japonés es que China abandone su política antijaponesa y el establecimiento de una paz duradera en el Asia oriental, por medio de una sincera cooperación entre China y Japón, no teniendo ambiciones territoriales de ninguna especie.

"A la luz de estos hechos debe declararse con firmeza que la actual acción de Japón en China no está en conflicto con los tratados existentes.

"El gobierno chino al prestarse a las intrigas comunistas ha sido el causante de las hostilidades actuales, que hizo más graves con sus medidas persistentes y maliciosas en contra de Japón al tratar de destruir los intereses y derechos vitales de nuestro país, por medio de la fuerza de las armas. Ese gobierno es el que debe ser denunciado como trasgresor del espíritu del pacto antibé-

lico y como amenaza de la tranquilidad del mundo".

El Gobierno del Japón atribuye a la falta de comprensión de las verdaderas circunstancias, así como de las intenciones del Japón, y confía que la opinión mundial se dará cuenta eventualmente de esas verdades.

En cuanto a los procederes de la Liga de las Naciones y de Estados Unidos, dejamos libradas al juicio de cada uno, recomendando la imparcialidad de criterio, recordando, sin embargo, que el Japón no forma parte de esa Sociedad, y por lo tanto, no le reconoce su autoridad. Además, ningún juez está autorizado a juzgar las cosas sin investigar la veracidad del acusante, que en este caso es interesado en el asunto. Con respecto a los Estados Unidos que mantiene relaciones amistosas con el Japón, debe observarse que la cancelaría de Washington reconoce la legalidad de la acción japonesa, y dando la espalda a Tokio pretende declarar que Japón ha violado los tratados. Al Japón no le interesa ahora las opiniones de esas potencias que se mueven al impulso de sus intereses egoístas. Al Japón le interesa realizar la obra de verdadera humanidad impuesta por él para hacer del Asia Oriental una región tranquila y ordenada para constituir allí países progresistas y civilizados, libres de dominación extranjera, aunque esto sea de desagrado de las potencias que quieren continuar dominando sus colonias orientales.

La siguiente declaración del primer ministro, Príncipe Konoye, dada al representante de la United Press, ilustra la psicología china que explica el origen mediano de la situación actual.

## La xenofobia China

"En los últimos años, la política de China ha consistido principalmente, en difamar al Japón, en presentarlo ante el pueblo chino y ante el mundo como el único enemigo de China. Tratar de construir la unidad nacional sobre el odio a algún otro país o algún otro pueblo, es demasiado horrible para calificarlo con palabras. China ha dirigido su política xenófoba contra Estados Unidos, Inglaterra y otras naciones, y el Japón al llegar la última de todas, ha recibido a peor parte de esa política. Esencialmente, el odio de los chinos hacia los extranjeros es uno y el mismo".

Todos los países, y no solamente el Japón, han sido responsables de los agravios que sustentan los chinos contra los extranjeros. "La tragedia consiste en que la xenofobia de China, cuando es expresada en contra del Japón, alcanza formas más violentas. Esto es comprensible por la sensación de inferioridad que en general, se siente con mayor fuerza respecto a un pueblo de la misma raza o de mayor proximidad geográfica.

"Cuando la antipatía china contra los japoneses fué fomentada hasta el punto de hacer que los chinos pensaran que luchar con el Japón era la única forma de que pudiesen vivir; cuando al error de criterio se sumó la existencia de una

fuerza nacional de relativa importancia; y cuando China se encontró atada sin remedio por los lazos destructores que había contraído, la lucha se hizo inevitable para ambas naciones.

"Se puede decir que las provocaciones han sido tales, que tarde o temprano se tenía que producir un reajuste general, y que sólo una sabiduría admirable que desgraciadamente no se ve en estos tiempos en el mundo, podría haber evitado que ese reajuste tomara la forma de una lucha armada".

VERSION JAPONESA DEL ATAQUE A  
LOS AUTOMOVILES PARTICULARES

SHANGHAI, 12. (Domei). — El Consulado General de Gran Bretaña presentó una protesta ante el Cónsul General del Japón contra el ataque de los aviones de la Marina Imperial a los automóviles particulares en los cuales viajaban súbditos ingleses. La realidad es lo siguiente:

Los aviones de la Marina Imperial, a su regreso de una misión, el día 12 a las 4 de la tarde más o menos, observaron dos automóviles similares a los del ejército chino, sin que pudiera reconocer ninguna señal exterior que indicara lo contrario, comenzaron a atacar. Pero, al ver que los autos se pararon y descendieron de ellos pasajeros extranjeros que agitaron la bandera inglesa, se retiraron inmediatamente, sin causarles ningún daño.

Las autoridades navales habían recibido la información del consulado general de Gran Bretaña sobre el viaje de los oficiales de la aviación inglesa desde Nankín a Shanghai, pero el lugar del suceso está fuera de la ruta indicada por el Cónsul Británico, ni llevaban los automóviles ninguna señal visible para su reconocimiento. Los aviadores los tomaron por autos militares chinos. Se supo después, también, que en uno de esos automóviles viajaba el secretario Shanoff de la embajada rusa.

## EXPOSICION FLORAL DE PRIMAVERA

La exposición floral de primavera, organizada por la Sociedad Argentina de Horticultores, se realizó este año en los salones de Plaza Hotel de esta capital en los días 7 y 8 del corriente mes.

La muestra fué inaugurada con presencia de S. E. el Presidente de la República y el Ministro de Agricultura, y selecto número de damas y caballeros de la sociedad porteña, constituyendo un acto social de distinción.

Los expositores nipones, que se distinguieron en ésta como en las anteriores, merecieron el elogio consiguiente de los jurados y del público. Recibieron los mejores premios incluso la medalla del Presidente de la Nación, que le fué adjudicada al señor K. Gashú, los siguientes expositores: señores S. Takaichi, H. Ogasawara, T. Yamamoto, S. Hisaki y otros.

SINTONICE EL PROGRAMA DE LA

Osaka Shosen Kaisha

todos los miércoles a las 19 horas.

POR

RADIO  
EXCELSIOR

LAMPARAS "YAMADA" DE CALIDAD



Luz Clara - Terminación Prolíja - Selección Especial

USE LAMPARA  
"YAMADA"

En venta en las buenas casas del ramo

## ¡Beba buen café!

EL CAFE DE SANTOS "AGUILA" está elaborado con los mejores catés que se importan del Brasil, tostados y con un 10 cto de azúcar abrigillado. ¡Nada más!

Muchos cafés que por ahí se expenden, ¿podrían afirmar otro tanta?

Deduzca Vd. y prefiera el

CAFE DE SANTOS "AGUILA"

ES UN PRODUCTO SAINT.

**LANA Y ALGODON SON ARTICULOS IMPRESCINDIBLES PARA EL JAPON**

TOKIO, octubre 9. — El Gobierno del Japón ha preparado una lista de artículos incluidos en la prohibición de importar o de exportar mientras dure la condición de emergencia actual, que regirá desde el 11 de octubre. En ella no figuran, ni algodón ni lana, ni madera para la fabricación de artículos para exportar que están considerados como artículos imprescindibles para el Japón industrial.

**YOSHIE FUJIWARA, EN EL CULTURAL ARGENTINO JAPONES**

El señor Yoshie Fujiwara, tenor japonés actualmente en Buenos Aires, fué recibido el 11 del corriente por el Instituto Cultural Argentino-Japonés que así quiso rendirle homenaje a su persona y a través de él al arte japonés.

Concurrieron al acto numerosos socios con sus familiares, además del encargado de negocios del Japón y la señora de Terajima, presidente del Museo Social y la señora de Amadeo, autoridades del Instituto, representantes de la Asociación Japonesa y Cámara Japonesa de Comercio, etc., dando a la reunión un carácter de fraternización argentino-japonesa.

Conferencia del Sr. Kei-ichi Yasunaga

**Industria pesquera en el Japón y sus posibilidades en la Argentina**

(Continuación)

Y ¿por qué no ha de exportarse el producto marítimo argentino lo mismo que los productos agropecuarios? Debo señalarlos que, en el mercado mundial de productos marítimos, la nación rival más fuerte de la Argentina sería indudablemente el Japón que por ahora marcha a la cabeza de las naciones pesqueras. Cuando llegará el día en que los productos de pesca argentinos competirán con los del Japón?

He encontrado muchas personas que, sin reflexionar detenidamente afirman que la pesca es una explotación muy lucrativa, pues se extrae del agua sus productos sin abonar un solo centavo. Sabrán acaso aquellas personas que una empresa de pesca ha invertido grandes sumas de dinero en la compra de barcos, instalaciones e instrumentos antes de comenzar prácticamente sus negocios? Como es sabido, en la industria moderna del nitrato, se saca azoe del aire sin desembolso alguno para obtener la materia prima; pero no se podría sacar ni un kilogramo de nitrato sintético sin antes hacer gran inversión de capitales en las instalaciones, maquinarias y personal.

A mi parecer el riesgo es mayor en la pesca

que en la industria antes mencionada, por razón de que en la primera las condiciones meteorológicas técnica, idoneidad del personal, movilidad de peces, etc. constituyen los principales factores de éxito o de fracaso, más decisivos que en la última. La pesca también se asemeja a la industria minera por su carácter arriesgado y sus métodos más bien primitivos. Efectivamente, los métodos de la pesca no han adelantado mayormente desde miles de años atrás, pues aún se emplean en general anzuelos y redes como principales instrumentos como se hacía en tiempos remotos. No dudo que se podrán inventar en el futuro métodos científicos más adecuados a las aguas y clima argentinos, pero en la actualidad, el personal aún constituye indiscutiblemente el elemento más importante en una empresa de pesca. Por lo tanto, para sacar el mayor rendimiento de las fuentes de riqueza marítimas argentinas, aún no explotadas sino en una mínima parte, es menester proveer a esta industria de un personal competente, particularmente de personal técnico que es la base principal para el buen desenvolvimiento de las tareas concernientes. Para llevar a efecto el fomento de la pesca que proyecta el P. E., éste debe, en primer lugar, hacer venir de las principales naciones pesqueras técnicos que se ocuparán de organizar el personal argentino competente. Colaboración entre pescadores argentinos y técnicos japoneses contribuirá sin duda alguna al desarrollo de la naciente industria pesquera y por ende al mejoramiento económico de la gloriosa nación argentina.

F I N

|   |   |  |   |
|---|---|--|---|
| <p><b>"NAMBEI"</b><br/>Compañía de Importación y Exportación Sociedad Anónima<br/>Telegramas "NAMBEI"<br/>U. T. (33) 3001, 3002, 3003, 3004, 3008 y 3571<br/>T. T. Buenos Aires, 904<br/>SARMIENTO 470 BUENOS AIRES</p> | <p><b>T. NISHIZAWA</b><br/>Representante de<br/>Mitsubishi Shoji Kaisha, Ltda.<br/>FLORIDA 229 U. T. 33-5469</p>                | <p><b>F. KANEMATSU y Cía. Ltda.</b><br/>Importaciones y Exportaciones<br/>JUJUY 136 - U. T. 45, Leria 5823 y 5824</p>            | <p><b>S. TSUJI</b><br/>Importador<br/>BALCARCE 682 - U. T. 33 Avda. 5744</p>  |
| <p><b>H. KATO</b><br/>Unica Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería<br/>HERRERA 2097 y 2111 - U. T. 21-1841</p>   | <p><b>S. YAMADA y Cía.</b><br/>Importadores<br/>MORENO 2039<br/>U. T. Cuyo, 47-4354 y 4405</p>                                  | <p>PIDA SIEMPRE<br/><b>Marca KANEBO</b><br/>PARA TEJIDOS<br/>Avda. ROQUE SAENZ PEÑA 989<br/>U. T. 35-7632 8.º piso Oficina D</p> | <p><b>LA MAISON SATUMA</b><br/>K. YOKOHAMA<br/>Objetos de Arte y Antigüedades<br/>ESMERALDA 1080 - U. T. 31-8601<br/>Sucursal:<br/>SUIPACHA 865 - U. T. 31-4837</p> |
| <p><b>SADAO HATTORI</b><br/>IMPORTADOR<br/>Especialidad en artículos de Cepillería<br/>LINIERS 649 - U. T. 45, Leria 321P</p>   | <p><b>IIDA y Cía. Ltda.</b><br/>(Takashimaya)<br/>Importadores y Exportadores<br/>RODRIGUEZ PEÑA 162<br/>U. T. Mayo 38-3419</p> | <p><b>M. OMURA</b><br/>Importador de artículos generales del Japón<br/>SAN MARTIN 235 - U. T. 33-2683</p>                        | <p><b>Sastrería JAPONESA</b><br/>Fundada en el año 1916 de S. KATAYAMA<br/>PIEDRAS 572 - U. T. 33-5452</p>  |
| <p><b>KATSUDA y Cía.</b><br/>Importadores<br/>MEXICO 1474 - U. T. 38, Mayo 2312</p>   | <p><b>R. HARA y Cía.</b><br/>Importadores<br/>BELGRANO 1470<br/>U. T. Mayo 38-2438 y 9437</p>                                   | <p><b>S. ANDO y Cía.</b><br/>importadores<br/>DEFENSA 532-40<br/>U. T. 33 (Av.) 2296</p>   | <p><b>GUIA JAPONESA</b><br/>LEGACION DEL JAPON: Reconquista 336. — U. T. 31-3193.</p>   |
| <p><b>B. TAKINAMI</b><br/>Importador<br/>Casa Establecida en el año 1905<br/>VICTORIA 733 - U. T. Mayo 38-3413</p>  | <p><b>CARLOS C. ISHIY</b><br/>Importador y Exportador<br/>Bm6. MITRE 341 - U. T. 33 Avda. 9782</p>                              | <p><b>JIRO HONDA y Hno.</b><br/>Importadores de Artículos Generales del Japón<br/>MORENO 1320 - U. T. 38 Mayo 2718</p>           | <p>CONSULADO DEL JAPON: Reconquista 336, U. T. 31-3193.<br/>CAMARA DE COMERCIO JAPONESA: Avenida Roque Sáenz Peña 618. — U. T. 33-1452.</p>                         |
| <p><b>I. HIROTA</b><br/>Importador de artículos generales del Japón<br/>CHILE 1029 - U. T. 37 (Riv.) 1051</p>   | <p><b>S. YOKOBORI</b><br/>Representante de FUJISAKI y Cía.<br/>CANGALLO 499<br/>3er. Piso Escr. N.º 21-22 - U. T. 33-9390</p>   | <p>Casa "YAMANAKA"<br/>Oriental Fine Art Curious<br/>VIAMONTE 624 - U. T. 31 7846</p>  | <p>INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES: Viamonte 1435.<br/>ASOCIACION JAPONESA: Patagones 840. — U. T. 23-4893.</p>  |
| <p><b>N. IKEDA</b><br/>The National City Bank of New York<br/>BARTOLOME MITRE 502<br/>U. T. Avenida 33 - 4081</p>   | <p><b>TARO MURAI</b><br/>Unica Casa Introdutora de Porcelana "NORITAKE"<br/>MAIPU 463 - U. T. Retiro 31-3189</p>                | <p><b>K. YASUNAGA</b><br/>Compañía Argentina, Comercial e Industrial de Pesquería<br/>DEFENSA 1597 - U. T. 33-7769</p>           | <p>COMPARIA DE VAPORES O. S. K.: ROQUE S. PEÑA 616 - 2.º Piso U. T. 33-1051 - 1052 - 1053 y 3565</p>  |